

図書館だより

秋田大学附属図書館

附属図書館ホームページ

<http://www.lib.akita-u.ac.jp/>



菅江真澄の道を通って 18 岩館の急坂

岩の裂け目にスカシユリが咲き競う。真澄は木蓮寺、須郷岬を越え、雪道を岩館に向った。

秋田大学名誉教授 山本穆彦氏 画

目次

巻頭言 知の「まほろば」をめざして	大好 直	2
職場体験学習／特別企画展		3
子ども見学デー／著書紹介	志立正知	4
著書紹介	塩谷隆信	5
シリーズ 心に残る一冊(39)	佐藤 稔	6
医学部分館コーナー／本学教員等著作寄贈図書		7
お知らせ／編集後記		8

知の「まほろば」をめざして

附属図書館長 大好 直



附属図書館は良い教育研究環境を皆さんに提供するため、職員一同、常に研鑽を重ね、一丸となって誠意努力をしています。多種多様な蔵書資料の管理を円滑に行うために所在の確認や図書情報のデジタル化に取り組んでいます。また必要な電子ジャーナルの利用環境を整えて研究論文の入手も容易にしています。更に、慣れない利用者のために検索講習会など、図書情報リテラシー指導の一環として行っています。

設備環境についても充実しています。自学自習のための空間である閲覧室はもちろん、インターネット検索のためのPC端末も整っています。もし、思うように成らないと感じるならば、それは図書館に慣れていないからでしょう。なぜならば、論文資料を探す方法に慣れていなければ入手するまでに時間が掛かりますし、閲覧室のどの席に座ったら便利であるかも分からなければ気分も落ち着きません。通い慣れた人ほど図書館を上手に利用できるものです。時として環境が狭隘なため気楽になれないとか友達と自由に話が出来ないなど感ずることがあるかもしれませんが、少しずつ改善していきますので、リピーターとなって図書館の雰囲気になれることをお奨めします。

研究者の立場から考えると、ICT（情報通信技術）の進展と共に図書館は変わらなければなりませんし、

そうなっています。研究に必要な情報はオンラインで入手できるようになり、時間的にも空間的にも物質的にも格段に改善されました。研究者は図書館まで足を運ばずに速やかにペーパーレスで情報が得られるようになっていきます。この様な情報獲得ルートの確立はデジタルデータ環境に依存しており、大学の研究活動がこの環境に左右されています。電子ジャーナルの活用度合い（アクセス数やダウンロード数）は大学の研究活動（論文発表数など）に比例すると言われています。したがって研究者による外部資金獲得増のためにも、図書館は必要な環境を整えてその活用を促すことが最重要であると考えています。

学習者の立場から考えると、動的にも静的にも情報交流の場としての機能の充実を図らなければなりません。学習環境として、沈黙思考できる空間が必要であると同時に、活発なディスカッションが出来る空間も必要です。学習の効果を上げるためには脳の休息と刺激が必要であり、適切に静と動がバランスよく配慮されるべきです。この様なことから図書館は、多様な環境と機能に応じて設計された静と動の学習の広場（ラーニングコモンズ）がなければなりません。それは新しい時代に通用する図書館として保有すべき機能とされています。学習者にとって図書館が知識獲得と知恵育成の広場、すなわち知の開かれた「まほろば」となるよう大学の後押しを得て努力しているところです。

（おおよし ただし 工学資源学部機械工学科 教授）

秋田市立河辺中学校職場体験学習

7月21日・22日

職場体験学習として、3年の男子生徒3名が二日間にわたり図書館業務を体験しました。

図書館長からネームカードをかけてもらい激励を受けたあと、図書の排架、書庫の整理、ラベル貼りなど慣れない環境での作業にとまどいながらも様々な業務に挑戦しました。

今回の体験を今後の進路選択の一助にしてもらえれば、と思います。



排架のための説明を受ける
真剣なまなざし



書庫の資料整理では
裏方のきつい仕事も体験



案内板の作成中
担当教諭が陣中見舞いに

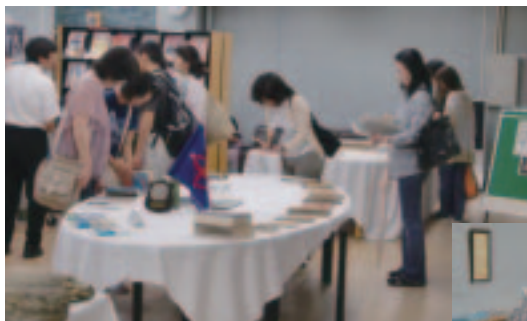
特別企画展（白瀬^{のぶ}展、ガリレオ・ガリレイ展）

7月26日

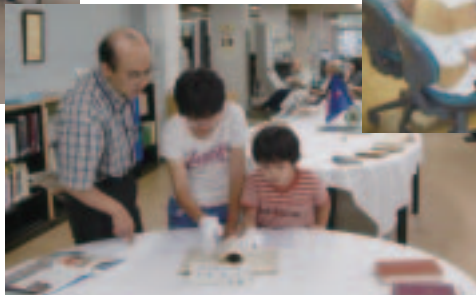
今年はガリレオ・ガリレイが天文観測を開始してから400年の世界天文年、また郷土の英雄白瀬^{のぶ}の日本南極探検隊が南極探検に出発して来年で100年にあたり、図書館を会場に特別企画展を開催しました。

白瀬^{のぶ}展では、本学所蔵図書のほか、にかほ市の白瀬南極探検隊記念館や本学関係者が所蔵する図書や写真、探検隊の旗、南極の石などの関連資料を展示しました。オーロラや観測隊等による記録映像の放映もあり、訪れた人々の目を楽しませました。

ガリレオ・ガリレイ展では、3年前本学に寄贈されたガリレオ著「天文対話」などの貴重図書のほか、国際教養大学や本学関係者の関連蔵書の展示を行いました。教育文化学部自然環境講座による4次元デジタル宇宙シアターも開催され、見学者を宇宙ロマンへいざないました。



教育文化学部・井上教授の解説を聞き、
展示資料を手にする



手袋をして貴重図書をめくる



映像資料に見入る見学者の
みなさん

秋田大学子ども見学デー

8月19日

夏休み恒例の子ども見学デーが開催され、図書館コースには市内の小学校児童16名（保護者11名）が参加しました。大好図書館長の歓迎挨拶のあと、館内ツアー、スタンプラリー、メモ帳・豆本作成などに親子で協力して取り組みました。



電動書架の見学
大きな書棚が動いてびっくり！



パソコンによる蔵書検索
ディスプレイに見入る子どもたち



特製の利用者カードを使い
自動貸出装置の操作体験



スタンプラリーの課題をクリアして
修了証を受け取る



好きな表紙を選び
製本機を使ってメモ帳作り



豆本製作では、細かい作業に
真剣に取り組む姿も

著書紹介(4)

『〈歴史〉を創った秋田藩

—モノガタリが生まれるメカニズム—

志立正知著

(306頁 笠間書院 2009年1月発行)



伝承など、人々に語り継がれるモノガタリはどのように生まれてくるのだろうか。本書では、そのメカニズムを考えることを目的として、文学（伝承）研究・歴史研究の枠を超えて、秋田の義家伝承の成立と拡大の背景を探ってみた。そこには、戦国期領主たち（小野寺氏や戸沢氏）への義家によ

る支配権付与と、義家の流れを汲む佐竹氏（義家の弟義光の子孫）による支配権の継承という、史実とは異なる歴史の創造によって、領民たちとの精神的な紐帯を築こうとする、新領主としての統治戦略が潜んでいた。

前九年・後三年の役で活躍した源義家は、源氏

の祖として、中世・近世をとおして武家の尊崇を集めてきた武将だ。秋田は後三年の役の舞台となった地だが、なぜか古く伝わる義家伝承は、前九年の役、安倍貞任追討に関する内容が多い。この史実とは異なる不思議な伝承の源を探っていくと、17世紀中頃に作られた、「金沢安倍軍記」と通称される沼館八幡神社の縁起に行き着く。そして縁起

成立の背景に、角間川などに入植した小野寺氏旧臣たちと、彼らを配下とした秋田藩家老の梅津半右衛門らによる焼失した神社の再建という史実が浮かび上がってくる。

伝承の向こう側にある当時の人々の思惑や、それを大切に伝えてきた人々の思いに、モノガタリの本質を垣間見る気がした。

(文：しだち まさとも 教育文化学部日本・アジア文化講座 教授)

*この本は本館秋田大学コーナーにあります。(212.4 || Sh25)

『現場の疑問に答える呼吸リハビリ徹底攻略Q&A』

塩谷隆信・高橋仁美 編著

(363頁 中外医学社 2009年1月発行)



呼吸リハビリテーション(リハビリ)は、呼吸器症状により日常生活活動(ADL)が低下している慢性呼吸器疾患患者に対する科学的根拠(EBM)に基づいた、学際的で包括的な医療介入である。近年、わが国においては、超高齢化社会の到来とともに、慢性閉塞性肺疾患(COPD)を始めとした慢性呼吸不全患者が急激に増加していることから、日常診療現場において呼吸リハビリの普及が期待されている。

「現場の疑問に答える呼吸リハビリ徹底攻略Q&A」は、呼吸生理学などの基礎医学から、患者さんを中心とした臨床医学、在宅医療や医療制度まで、非常に幅広く扱っているのが特徴のひとつとなっている。さらに呼吸リハビリには関係する職種も多いことから、現在、各専門領域で活躍して

いる新進気鋭の先生がたを中心に分担執筆をお願いした。

本書は、これから呼吸リハビリを始めようという人のための初級・入門編と、すでに呼吸リハビリに係わっている方々を対象とした上級・実践編とに分け、さらに、困ったとき、確かめたいときなどにすぐに利用できるように、巻頭の索引をもとに本文のいろいろな項目を調べられる工夫をしたのも大きな特徴である。こうした目的別索引は従来にはない画期的な試みであり、日々の臨床現場で大いに活用していただきたい。

なお関連した著者らの書籍として、2008年上梓した「呼吸ケア 改訂版」(メジカルビュー社)、「動画でわかる呼吸リハビリテーション 第2版」(中山書店)も参考にいただければ幸いです。

(文：しおや たかのぶ 医学系研究科保健学専攻理学療法学講座 教授)

*この本は医学部分館2階閲覧室にあります。(WF145 || G34 || 2009)





『やちまた』

足立 卷一 著
河出書房新社 1974



佐藤 稔

「現今^{おびただ}夥しい出版物があふれているが、概して、寄せ集めやちょっとした解説書風のもの、古書の復刊物などで、必ずしもその人でなければできない出版ではない」という意味のことばは本居宣長の長男春庭^{はるにわ}が洩らしたものであるが、それは、そのまま現代の出版界にも厳しい反省を促すことばである。春庭という人物は盲目の国語学者であるが、彼は世に流布する凡百の刊行物とは異なる価値ある著作として、動詞の活用を論じた『詞の八衢^{ことば やちまた}』を出版した。が、彼の自負とは裏腹に、後世の評価は父宣長とその弟子鈴木^{あきら}辰らに偏りがちであった。

足立卷一氏の『やちまた』（上下 河出書房新社 1974年、1990年新装版、後、朝日文芸文庫 2冊 1995年）は、40年余にわたる春庭^{ついにん}追尋と師友の人生とを交錯させて綴り、1編の長大な学問的私小説をなしている。国語学の教員となったばかりの私は、この本で「国語学史」の新たな知識を得たばかりでなく、面白さ、奥深さをも知ることとなった。この書で足立氏は春庭の業績を正当に位置づけし、その獨創性を顕彰したと言っている。が、堅苦しい考証に興味のない人にも十分堪能できる豊かな内容を備えた多面的な作品である。足立氏と春庭という、時代を異にする二人の人生を交錯させ、それぞれが遭遇した不幸、苦難、歓びなどが丹念に画き込まれている。就中^{なかんずく}、戦時色を濃くしつつあった時局と神宮皇学館での足立氏の学生生活とが鮮明に語られ、伊勢松阪^{かいわい}界隈の景物が手際よく活写されているところなど、往事をよく知らない者にとっても印象的である。

語学者には春庭のような不幸な人や世間から偏屈

といわれる人が多いが、70歳過ぎに^{めいりんどう}明倫堂教授となった鈴木辰が謝礼について、〈菓子より砂糖、砂糖より鯉節、鯉節より金〉と、当時としては身も蓋もないあけすけな貼紙をしたという逸話を、作中人物の白江教授（実在の酒井秀夫教授がモデル）に語らせている。こうしたエピソード豊かな人物はかなりの数に上る。そして彼らに注がれる足立氏の視線には先人に対する共感と尊敬がある。

ことばは多岐に分かれてはまた繋がって行く。この春庭の「やちまた」の譬喩を、人生観照にまで及ぼし、新しい評伝文学を開拓したと言える。生きて行くことは絶えずいくつにも分かれた道のひとつを選ぶことであり、それを進めばまた「やちまた」に立たなければならない、人と人のつながりもまた同じという考えが、標題によく示されている。

続く『夕暮れに苺を植えて』（新潮社 1981年）『虹滅記』（朝日新聞社 1982年）『親友記』（新潮社 1984年）でも、恩師、知友、肉親の生涯を追尋し、落涙数条なくしては読み得ない挿話も記す。謙虚で老成した隙も破綻^{すき はたん}もない文章は、当節「流行」のものではないが、「不易^{ふぎ}」の価値をもっている。

足立氏に導かれるように、稿本（肉筆原稿）によって学説の細部の成立を考察することに興味を持った私は、松阪市にある本居宣長記念館の資料を用い、何編かの論文を書いた。読者に足立氏ひとりを想定して書いたのだが、氏は1985年8月14日、急性心筋梗塞のため72歳でこの世を去られ、その機会を永久に逸してしまった。

（さとう みのる 教育文化学部 日本・アジア文化講座 教授）

※ この本は本館開架 1Fにあります。(913.6 || A16 || v.1, v.2)

JDream IIのご案内 —医学・看護学関係のデータベースが利用できます—

JDream IIは、科学技術振興機構（JST）の提供する、医学系分野を含む国内外の科学技術文献情報の検索システムです。医学・看護学関係では、以下のデータベースが利用できます。

- **JMEDPlus** 日本国内で発行された医学、薬学、歯科学、看護学、生物科学、獣医学等に関する文献情報を収録しています。（1981ー）
- **MEDLINE** 米国国立医学図書館が作成・提供するデータベースで、医学およびその関連領域を対象とする文献情報を収録、70カ国以上の情報を含んでいます。（1950ー）
- **医学・薬学予稿集全文データベース** 医学・薬学・看護学系学会から許諾を得た予稿集の全文がPDFで収録されています。（1999ー）

JMEDPlus、MEDLINE の検索結果は秋田大学蔵書検索OPACにリンクし、その場で所蔵の確認や文献申込みができます。（検索結果右下の **Your Collection** をクリックして下さい。）また、電子ジャーナルにリンクし、全文が閲覧できる場合もあります。

アクセス方法

図書館HP <http://www.lib.akita-u.ac.jp/>

↓
各種データベース をクリック

↓
JDream II をクリック

↓
アルファベットで名前を入力してログイン

↓
データベースを選択して検索モードボタンをクリック



本学教員等著作寄贈図書

本学教員が著し、寄贈されたものです。ありがとうございました。

（平成20年9月～平成21年8月受入）

本館所蔵分は「秋田大学コーナー」にあります。

寄贈者名（敬称略）	書名	出版社	出版年	請求記号
牲川波都季 分担執筆	文化、ことば、教育 ：日本語 / 日本の教育の「標準」を越えて	明石書店	2008	本館 810.4 II Sa85
Donald C. Wood 共編	Hidden hands in the market (Research in economic anthropology v.28)	Emerald JAI	2008	本館 332.06 II N67
Donald C. Wood 編	Economic development, integration, and morality in Asia and the Americas (Research in economic anthropology v. 29)	Emerald JAI	2009	本館 332 II W86
杜 威 分担執筆	沸騰する中国の教育改革 （学習院大学東洋文化研究叢書）	東方書店	2008	本館 372.22 II Su87
志立正知 著	「歴史」を創った秋田藩 ：モノガタリが生まれるメカニズム	笠間書院	2009	本館 212.4 II Sh25
石川三佐男 共著	漢詩鑑賞事典	講談社	2009	本館 921 II I76

（次頁へ続く）

石川三佐男 分担執筆	汉学研究 第3集 (中国文化研究汉学书系)	中国和平出版社	1996	本館 122 II E56 II v.3
幸野 稔 ・佐々木雅子 共著	Fostering positive cross-cultural attitudes through language teaching	Post Pressed	2008	本館 807 II I54
阿部 昇 著	頭がいい子の生活習慣 :なぜ秋田の学力は全国トップなのか?	ソフトバンククリ エイティブ	2009	本館 379.9 II A12
浦野 弘 著	秋田の子供はなぜ塾に行かずに成績がいいのか	講談社	2009	本館 372.124 II U84
佐々木和貴 共編	イギリス王政復古演劇案内	松柏社	2009	本館 772.33 II E61
島澤 諭 著	おらほがもし 100人の村だとへば:秋田県版	東北文化出版	2009	本館 302.124 II Sh43
島澤 諭 共著	孫は祖父より1億円損をする :世代会計が示す格差・日本	朝日新聞出版	2009	本館 342.1 II Sh43
本橋 豊 編	ライブ総合自殺対策学講義 (秋田医学叢書:No.1)	秋田魁新報社	2009	本館 368.3 II Mo83 分館 WM401 II R12 II 2009
本橋 豊 編	秋田メディカル・サイエンスカフェへようこそ: 最新の医学研究への招待 (秋田医学叢書:No.2)	秋田魁新報社	2009	本館 490 II Mo83 分館 W20.5 II A37 II 2009
塩谷隆信 共編	呼吸ケア 改訂版 (リハ実践テクニク)	メジカルビュー社	2008	分館 WF145 II Sh78k II 2008
塩谷隆信 共編	動画でわかる呼吸リハビリテーション 第2版	中山書店	2008	分館 WF145 II D81 II 2008
塩谷隆信 共編著	現場の疑問に答える呼吸リハビリ徹底攻略Q&A	中外医学社	2009	分館 WF145 II G34 II 2009

※図書館では本学教員の著作物(単独著書、共著書、編著書、訳書、分担執筆、学位論文)を積極的に収集し、利用に供しています。出版の折には御寄贈くださるようお願いいたします。



1. 後期情報リテラシー授業を開催します

授業名: 情報と知識・技術B
 期 日: 10月6日~11月24日 (火曜日5・6時限)
 教 室: 総合情報処理センター第1端末室 (定員50名申込先着順です)
 内 容: ネットワーク時代における的確な情報収集法と
 レポート・論文作成法を学ぶ

2. リクエストをどうぞ!

自分が必要としている資料が図書館になかったことはありませんか?
 図書館では、学生からの資料購入希望を受け付けています。申込み用紙に記入して、1Fホールのリクエストボックスに投函してください。(図書館ホームページからも申し込めます) そのほか、図書館への要望も受け付けています。

3. 図書館カウンターから

本館第1閲覧室の一部に、新たにキャレル式の閲覧機が入りました。
 LED照明を採用しています。どうぞご利用ください。

編集後記

気候が穏やかになってきたせいでしょうか、机に突っ伏して熟睡している利用者の姿もチラホラ。

今年3月には第2閲覧室、8月には第1閲覧室の閲覧機を新しくキャレル式に換えました。大いに利用していただけのもとの期待しています。

ところで、間もなく新型インフルエンザの流行がピークを迎えるとか。どうなるのでしょうか?心配なことです。

図書館だより 第67号

2009年10月1日発行

編 集 秋田大学附属図書館出版物編集委員会
 発行者 秋田大学附属図書館
 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
 TEL 本館018-889-2279 分館018-884-6052
 FAX 本館018-832-4917 分館018-884-6252
 E-mail: 本館 riyos@lib.akita-u.ac.jp
 分館 ibun@lib.akita-u.ac.jp